

No. 64 >>> Contents

●年頭所感

・・・・・・・・・・一般財団法人 大日本蚕糸会 会頭 小林芳雄 ————— ①

●一般財団法人 大日本蚕糸会から

令和元年度（第 75 回）蚕糸功労者表彰式を挙行 ————— ②

「全国シルクビジネス協議会」を設立 ・・・・・・・・ 全国シルクビジネス協議会 ————— ⑤

●トピックス

伝統ある養蚕業を継承して・・・・・・・・ 新規養蚕参入者研修生 菊池慎吾 ————— ⑦

第 5 回ぐんま養蚕基礎講座および第 5 期ぐんま養蚕学校の受講生募集

・・・・・・・・ 群馬県蚕糸技術センター ————— ⑩

●蚕糸・絹業史のひとコマ

各地に開設の蚕業教育施設、蚕糸業法の制定と廃止

・・・・・・・・ シルク博物館 元部長 小泉勝夫 ————— ⑫

●研究・技術情報

全国シルクビジネス協議会 新用途分科会の活動

・・・・・・・・ 東京農工大学大学院工学研究院 准教授 中澤靖元 ————— ⑮

●蚕糸・絹業団体情報

京都織物卸商業組合 創立 50 周年を迎えて

・・・・・・・・ 京都織物卸商業組合 常務理事 大坪 宏 ————— ⑳

●イベント情報 ————— ㉓

●一般財団法人 大日本蚕糸会から

2019 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ————— ㉕

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧（2019- 第 3 次） ————— ㉟

一般財団法人 大日本蚕糸会活動日誌 ————— ㊱

第 8 回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール出品を募集 ————— ㊲

●蚕糸絹関係博物館一覧 ————— ㊳

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧 ————— ㊴

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。） ————— ㊵



一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 小林 芳雄

明けましておめでとうございます。本年も、わが国の蚕糸絹業の発展のため、皆様から大日本蚕糸会に対して期待される役割が果たせるよう努力してまいりますので、宜しく願い申し上げます。

本年7月には、56年ぶりにわが国2度目の東京オリンピック・パラリンピックが開かれ、日本の優れた風土・文化を世界に発信する良い機会になるものと期待されます。昨年秋に開催されたラグビーのワールドカップでは、関係者のご尽力により、メダルリボンに純国産の生糸を使用した組紐を用いることができました。今夏のオリンピック・パラリンピックでは更に多くの訪日客も見込まれます。様々の機会をとらえて和装を含む国産シルクの素晴らしさを内外にアピールできればと考えます。

また、昨年9月には新たに「全国シルクビジネス協議会」が発足いたしました。近年のわが国シルク産業は縮小傾向にあります。一方で特徴ある蚕品種を活かした純国産絹製品への関心は高く、遺伝子組換えカイコを利用した新たなシルクの生産も始められています。更には衣料品に加えてカイコを医療用途や化粧品等の素材として利用する取り組みも進められています。ただ、これらの動きは個々の事業者が独自に取り組んでいる段階で、関係者相互の十分な連携が図られているとはいえません。そこで、養蚕、製糸、加工・流通等のシルクに関係する事業者や研究者、地方自治体など幅広い方々の参画を得て、シルクに関する情報の共有、相互の発信、連携体制等を強化し、シルクの多様な分野での利用促進を図るとともに、養蚕業やシルク関連産業の活性化を通じて地域振興に資することを狙いとして、この全国シルクビジネス協議会が設立されたものです。

本協議会の事務局は大日本蚕糸会が務めることになり、具体的な活動方針などについて協議を進めております。多くの皆様から今後の運営について御示唆やご協力を頂ければ幸いです。また本年は、来年4月に発足予定の本会の新研究所について事業運営体制の構築を急ぐとともに、助成事業等についても令和3年度からの次期対策に向けた検討を行うこととしております。皆様方の引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和元年度（第75回）蚕糸功労者表彰式を挙行政



第75回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の令和元年度「蚕糸功労者表彰式」は、去る11月6日（水）東京都千代田区内幸町・帝国ホテル2階牡丹の間において、総裁常陸宮正仁親王殿下御臨席のもと、盛大に挙行政された。本表彰式では、蚕糸功績賞3名、蚕糸功労賞15名、蚕糸有功賞15名、貞明皇后記念蚕糸科学賞1件、蚕糸絹文化学習教育奨励賞（蚕を学ぶ奨励賞）2小学校が栄えある表彰を受けられました。

1. 蚕糸功績賞（3名）

林 良 博 現 東京大学名誉教授

氏 家 昇 一 現 松岡株式会社代表取締役社長

故 伊 藤 公 一 元 株式会社伊と幸 代表取締役社長



林 良博 様



氏家 昇一 様



故 伊藤 公一 様 ご令嬢 北川 佐知 様

2. 蚕糸功労賞（15名）

岩 手 県

宮 城 県

山 形 県

福 島 県

茨 城 県

群 馬 県

群 馬 県

群 馬 県

山 梨 県

徳 島 県

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構

（一社）日本絹人織織物工業会

（一財）伝統的工艺品産業振興協会

（一財）伝統的工艺品産業振興協会

本 会

佐 藤 正 昭

佐野地織保存会

今 田 邦 信

吉 田 清

大 津 義 美

小 山 重 見

須 関 浩 文

岡 野 俊 彦

依 田 健 人

斎 藤 裕 行

廣 川 昌 彦

毛 利 ゆき子

近 藤 良 治

澁 谷 實

平 川 嘉 一

3. 蚕糸有功賞（15名）

宮 城 県	佐々木 松 喜
宮 城 県	亀 井 松 雄
福 島 県	高 橋 忠 俊
福 島 県	荒 川 昭 弘
群 馬 県	武 井 正 江
群 馬 県	丹 羽 ふさ枝
群 馬 県	吉 田 めぐみ
埼 玉 県	田 島 保 男
長 野 県	御子柴 恵 子
長 野 県	小 林 春 美
京 都 府	北 野 靖
京 都 府	本 田 英 俊
（国研）農業・食品産業技術総合研究機構	石 川 達 夫
（一財）伝統的工芸品産業振興協会	山 崎 由 雄
（一社）日本蚕糸学会	茅 野 誠 司

○令和元年度（第62回）貞明皇后記念蚕糸科学賞

「九州大学保存蚕系統を活用したタンパク質高生産に関する技術開発」

国立大学法人九州大学大学院農学研究院

日下部 宜 宏

李 在 萬

○令和元年度（第7回）蚕糸絹文化学習教育奨励賞（2小学校）

「蚕を学ぶ奨励賞」

福島県 伊達市立保原小学校

群馬県 伊勢崎市立境小学校

（敬称は略させていただきました）

「全国シルクビジネス協議会」を設立

全国シルクビジネス協議会

令和元年9月13日大日本蚕糸会会議室で設立総会が開催され、「全国シルクビジネス協議会」が設立されました。会長には小林芳雄氏（大日本蚕糸会会頭）、副会長には吉永優氏（農業・食品産業技術総合研究機構部門長）、監事には見井田弘氏（八重洲総合税務事務所税理士）が就任しました。また、協議会の事務局が（一財）大日本蚕糸会に設置されました。

目的

シルクに関する情報共有や発信、シルク関係者の連携体制の構築等を通じて、シルクの様々な分野での利用促進を図ることにより、国産シルクの需要拡大と国内養蚕業の振興、シルク関連産業による地域振興に資することを目的として設立されました。

取組内容

協議会の事業を円滑に推進するために、以下の5つの分科会を設置し活動を行う予定です。

① P R 分科会

国産シルクの魅力や利用技術等に関する情報の国内外への発信

② 蚕糸分科会

繭等の生産に関する情報収集、養蚕経営の安定や担い手の確保に資する事業の実施

③ 繊維分科会

国産繭の繊維利用の拡大を図るための情報交換、関連事業者のニーズの把握

④ 新機能シルク分科会

新機能シルクの需要拡大のための情報交換、関連事業者のニーズの把握、新機能シルクの生産体制の確立に向けた連絡調整

⑤ 新用途分科会

シルクの新たな利用に関する技術等の情報交換、新たな利用の促進に関するニーズや課題の把握

協議会では現在会員を募集しております。会員は下記いずれか（もしくは複数）の分科会に所属することになりますので、入会希望の方はそれぞれの分科会にお問い合わせください。

P R 分科会 主査	株式会社リバースプロジェクト トレーディング	河合 崇	TEL 03-5651-8206 kawai@rebirth-project-tr.jp
蚕糸分科会 主査	一般財団法人大日本蚕糸会	寺野 重造	TEL 03-3214-3500 terano@silk.or.jp
繊維分科会 主査	東洋紡糸工業株式会社	鳥越 昌三	TEL 03-5299-4800 info@toyoboshi.co.jp
新機能シルク分科会 主査	農業・食品産業技術総合研究機構	桑名 芳彦	TEL 029-838-6102 kuwana@affrc.go.jp
新用途分科会 主査	東京農工大学	中澤 靖元	TEL 042-388-7612 yasumoto@cc.tuat.ac.jp

「全国シルクビジネス協議会 蚕糸分科会」入会のご案内

現在、蚕糸分科会では会員を募集しております。

蚕糸分科会では、下記の養蚕業・製糸業を中心にした取組を行う予定ではありますが、入会されますと繊維に限らずさまざまな分野で活躍している会員と交流することができます。また、協議会の活動等に関する情報が提供されます。

蚕糸分科会の主査

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸分科会の取組内容

- ①養蚕等の資材の確保に関すること
- ②蚕種製造、稚蚕飼育等の利用に関すること
- ③養蚕・製糸の技術普及等に関すること
- ④新たな技術の振興に関すること
- ⑤その他分科会の運営に必要な事業

蚕糸分科会の入会資格

蚕糸に関する業務を行っている又は、蚕糸に係る技術・情報等に関心がある農家、企業、団体、地方公共団体などであり、入会が認められると協議会の協力会員となります。

蚕糸分科会の会費

蚕糸分科会の会費は、原則無料となります。

入会を希望される方は、下記にお問い合わせください。より詳しい、蚕糸分科会入会案内、蚕糸分科会規程、入会申込書等についてお知らせします。

■問い合わせ先：

全国シルクビジネス協議会 蚕糸分科会

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人大日本蚕糸会内

TEL:03-3214-3500 FAX:03-3214-3511

担 当：寺野 (terano@silk.or.jp)

廣瀬 (hirose_takato@silk.or.jp)

佐藤 (rsato@silk.or.jp)

伝統ある養蚕業を継承して

新規養蚕参入者研修生

菊池慎吾

牛久大仏に見守られながら通った研修期間は、毎日が本当に新鮮で、充実したものとなりました。蚕業技術研究所の新保所長をはじめ、各専門分野の研究員の皆様には、大変お世話になりました。特に、第二蚕室の持田さん、松本さん、野澤さんには、お忙しい中、ほとんど毎日付きっきりでご指導していただき本当に感謝しています。

私自身、平成31年3月に5年間勤めていた会社を退職し、4月から祖父が代々継承してきた養蚕業を引き継ぐことにしました。小さいころに、給桑や回転族を組み立てたりと、少しお手伝いをした程度で、養蚕については、ほとんどゼロからのスタートでした。今回の研修が始まるまでに、春・夏・初秋蚕期の計3回、祖父から指導を受けながら実際に飼育をしてきました。その中で、桑園の管理方法であったり、お蚕を

飼育する際の温度・湿度の調整であったりと、お蚕の様子を常に観察しながら飼育することに驚きを感じました。飼育している時はもちろん、配蚕までの期間も消毒など、やらなければいけないことがたくさんあると感じ、もっと詳しく、より正確な知識や技術を身につけたいと強く思い、今回の研修に参加させていただきました。

研修内容としては、まず、稚蚕人工飼料育を実際に説明を交えていただきながら、体験しました。今まで、家に配蚕される前のお蚕の様子を見たことがなかったので、初めて見た蟻蚕の姿には驚きました。パッと見は、文字通り「蟻」のような姿をしていて、そもそも、お蚕は最初から白いものだと思い込んでいたので、「蟻蚕が成長して黒色の見た目から白色になる」と、教えていただいた時の衝撃は忘れられません。また、稚蚕室へ入る際



稚蚕人工飼料育



5 齢給桑



桑園管理の講義

は、必ず白衣・手袋・マスク等を着用し、しっかり消毒をしてから入室していました。お蚕が病気にならないよう、研究所全体で徹底していたので、愛媛に帰ったらすぐにでも、教わった消毒法であったり、管理法を実践しなければと考えながら、稚蚕室を出入りしたのを覚えています。

その後、研修用に準備していただいた「錦秋×鐘和」という品種のお蚕も大きくなり、いよいよ屋外の蚕室で桑の葉による飼育がスタートしました。給桑になるということで、このタイミングで摘桑作業もスタートしました。普段、家では剪定ハサミや電動ハサミを使って、祖父と摘桑作業をしていましたが、研究所ではなんと、「歩行型条桑刈取機」という機械を使用していました。この機械も自分自身、初めて目にして、そして実際に使用し、「こんな簡単に桑って刈れるんだ」と、感動したのと同時に、愛媛に帰ってからの手作業による摘桑作業を考えるとすごく億劫になりました。

また、桑に関しては、桑園チームの皆さんに、使用する機械の使い方を教えていただい



条桑刈取機の実習

たり、市橋さんには、桑の造成法・管理法であったり、病気についてやその対策法を講義で教えていただき、とても勉強になりました。桑の葉がなければ、今以上の数のお蚕を飼育できないので、これからの目標の一つとして、桑園の拡大を目指して、教わったことを活用していきたいと考えています。

茨城県での研修生活も、残りわずかとなっていき、収穫・毛羽取り・収穫調査等の作業を終え、飼育してきた研修用の繭を乾繭場へ搬入し、無事研修課程を修了することができました。1ヵ月間という短い期間ではありましたが、研究所内での講義、実習はもちろんのこと、他の農家さんの所へ連れて行ってもらったり、他の研究機関を案内してもらったりと、とても良い刺激にもなりましたし、ますます養蚕について興味が湧き、これから先、養蚕をするのが楽しみにさえ思えてきました。「仕事を辞めて家を継ごうと思う。」と、家族に相談したとき、母、そして祖父から、最初は反対されるだろうと思っていましたが、以外にも「やってみたらいい」と言われ、家族の

支え、後押しもあって「養蚕をやる」と決断した日は今でも鮮明に覚えています。始めた当初は、正直不安しかありませんでしたが、この研修を通して、お蚕の実用性、将来性を知ることができ、また、研究所の皆さんとの出会いが私にとって、一番の財産になったと思います。養蚕業に就かなければ、無かったこの出会いを大切にし、研

究所の皆さんには、これから色々とお世話になることがあるかもしれませんが、応援していただければ幸いです。

最後に、お蚕がもつ可能性は無限大だと思います。まずは、伝統ある養蚕業をしっかり継承して、祖父から、そして研究所で学んだことを活かし、誇りをもってお蚕を飼育していきます。



収繭



蚕室の消毒

第5回ぐんま養蚕基礎講座および 第5期ぐんま養蚕学校の受講生募集

群馬県蚕糸技術センター

平成30年度、群馬県の養蚕農家戸数は111戸となりました。繭価格の低迷や高齢化により毎年10%ほどの農家が蚕の飼育から離れています。蚕糸業を維持していくためには、将来にわたり繭生産を担う新規養蚕参入者の育成が最も重要な課題となっています。そこで、群馬県蚕糸技術センターでは、新たに養蚕参入を目指す方たちの研修の場として「ぐんま養蚕学校」を平成28年から開講し、支援しています。

ぐんま養蚕学校の年間スケジュールは図1

のとおりです。3月に開催する入門編の「ぐんま養蚕基礎講座」の受講生を中心に、5月から蚕糸技術センターでの研修を行います（図2）。センターでの研修後、実際に群馬県で養蚕を始めたい方が農家での実践研修へと進みます。

これまでに、養蚕の基礎を学ぶセンター研修に41名、農家実践研修に16名が参加しています。その内8名が養蚕を開始し、2名が養蚕ヘルパーと企業養蚕の従業員として活躍しています。県外からの移住者もいます。

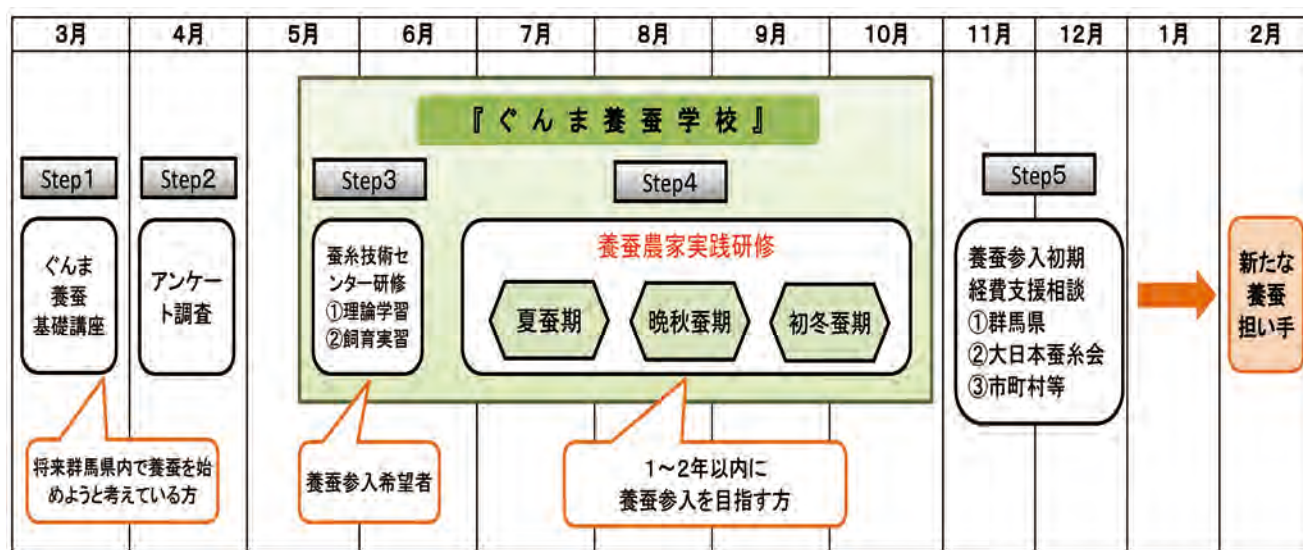


図1 年間スケジュール

令和2年の開催予定は以下のとおりです。

【第5回ぐんま養蚕基礎講座】

◆日時：令和2年3月19日（木）13時30分～16時

【第5期ぐんま養蚕学校：センター研修】

◆日時：①令和2年5月15日（金）13時30分～16時

②令和2年5月16日（土）～6月11日（木）8時30分～

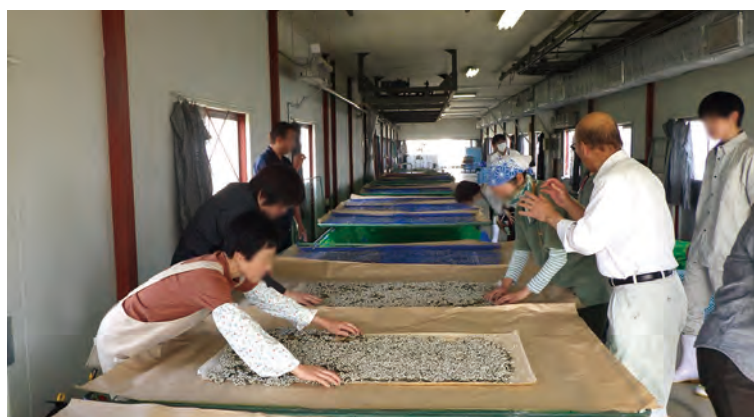


図2 飼育実習

■問い合わせ先：

群馬県蚕糸技術センター技術支援係
〒371-0852

群馬県前橋市総社町総社 2326-2

TEL: 027-251-5146

e-mail : sanshigise@pref.gunma.lg.jp

HP : <https://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その19 各地に開設の蚕業教育施設

養蚕技術を「教える」あるいは「学ぶ」ということは古くから行われてきた。

すでに江戸時代には、識者や蚕種製造業者等によって農家に養蚕の指導が行われていた。

江戸時代の蚕種製造業者は農家に蚕種を販売した場合、蚕の飼育が終了し繭や生糸販売後に蚕種代金を受け取る慣わしが多かった。従って農家が違作をすると、蚕種代金を支払ってもらうことは困難だったので飼育指導に力が入った。

このように優れた養蚕技術を持ち、経済的にも恵まれた蚕種製造業者は、多数の得意先を確保するために、養蚕指導の蚕書を執筆したり、飼育取り扱いの指導を行った。

その後、ますます養蚕が盛んになると養蚕指導者になろうとする者が現れるようになり、養蚕伝習所が開設されるようになった。この中で成績優秀な受講者は、養蚕教師として各地の農村に派遣され巡回指導をするようになった。

明治時代に入ると、このような伝習所が各地に設置されるようになった。中でも群馬県の高山社(高山長五郎が設立、清温育を指導)、埼玉県の競進社(木村九蔵が設立、一派温暖育を指導)は有名な養蚕伝習所であった。

このように明治時代から民間による養蚕

指導が行われる一方、国や県でも優れた養蚕指導員の養成を痛感し、養成機関ともいうべき蚕業学校や養蚕教育を行う農学校の設立に取組みだした。

その事例をあげれば、公的な蚕業学校として国内最初に設立されたのは長野県小^{ちいさがた}県蚕業学校で、1892(明治25)年のことであった。

第1表 各地に開設された
蚕業学校・蚕糸学校(大日本蚕糸会調査)

学 校 名	創立年月	所 在 地
長野県小県蚕業学校	明治 25・4	長野県上田市
福島県立蚕業学校	明治 29・3	信夫郡渡利村
山梨県立蚕業学校	明治 29・4	山梨県石和町
静岡県立蚕業学校	明治 30・12	浜名郡曳馬村
宮城県亘理蚕業学校	明治 32・4	宮城県亘理町
兵庫県立蚕業学校	明治 32・4	兵庫県八鹿町
社団法人競進社蚕業学校	明治 32・10	埼玉県児玉町
岩手県立蚕業学校	明治 34・3	岩手県千厩町
京都府立河守蚕業学校	明治 41・1	京都府河守町
長野県上高井蚕業学校	明治 44・7	長野県須坂町
長野県諏訪蚕糸学校	明治 45・3	諏訪郡平野村
群馬県立蚕糸学校	大正 2・2	群馬県安中町
愛知県西尾蚕糸学校	大正 8・3	愛知県西尾町
埼玉県立蚕業学校	大正 9・1	埼玉県川越市
京都府立城丹蚕業学校	大正 13・3	京都府綾部町
三重県立蚕糸学校	大正 15・2	度会郡小俣村

出典：大日本蚕糸会編集部「蚕糸要鑑」
PP. 288～289.(1930年)

第2表 養蚕（蚕業）科を併置していた
各地の農学校・農蚕学校（大日本蚕糸会調査）

学 校 名	創立年月	所 在 地
山口県立小郡農業校	明治 18・7	山口県小郡町
高知県立農業学校	明治 23・	長岡郡長岡村
山形県立村山農学校	明治 28・5	山形県楯岡町
山形県立置賜農学校	明治 29・1	山形県小松町
茨城県立水戸農学校	明治 29・4	東茨城郡常盤村
佐賀県立佐賀農学校	明治 30・4	杵島郡福治村
青森県立三本木農学校	明治 31・10	上北郡三本木町
岩手県立盛岡農学校	明治 32・4	岩手県盛岡市
岐阜県岐阜農林学校	明治 33・2	岐阜県加納町
愛媛県立松山農業学校	明治 33・4	温泉郡道後村
宮崎県立宮崎農学校	明治 33・4	宮崎郡赤江村
大分県立四日市農学校	明治 34・5	大分県四日市
鹿児島県立宮之城農蚕学校	明治 45・3	薩摩郡宮之城村
和歌山県立紀南農業学校	大正 3・2	和歌山県南部町
愛知県新城農蚕学校	大正 7・12	愛知県新城町
熊本県立菊池農蚕学校	大正 10・2	熊本県隅府町
和歌山県立紀北農業学校	大正 11・1	和歌山県岩出町
神奈川県立農学校	大正 11・10	高座郡相原村

出典：出典：大日本蚕糸会編纂部「蚕糸要鑑」
PP. 289～290. (1930年)

その後、明治 29 年には福島県と山梨県に、その翌年には静岡県に蚕業学校が設置された。

1899（明治 32）年になると実業学校令が制定され、全国各地に甲種、乙種の蚕業学校、農学校が設立（第 1 表、第 2 表、第 3 表参照）されるようになり、養蚕（蚕業）指導が盛んに行われるようになった。

農学校であっても養蚕に重きを置いた学校も多く、蚕糸の中等教育は全国各地で広く行われるようになっていった。

第3表 蚕業に重きを置いた農学校
（大日本蚕糸会調査）

学 校 名	創立年月	所 在 地
福井県立福井農林学校	明治 28・4	吉田郡圓山山西村
滋賀県立長浜農学校	明治 29・4	坂田郡長浜町
岡山県勝間田農林学校	明治 35・4	勝間田郡勝間田町
香川県立木田農業学校	明治 38・5	香川県平井町
福岡県朝倉農蚕学校	明治 39・3	朝倉郡三奈木村
愛知県猿投農学校	明治 39・9	西加茂郡猿投町
徳島県立板西農蚕学校	明治 39・10	板野郡坂西町
神奈川県立農業学校	明治 40・4	中郡平塚町
長野県南佐久農蚕学校	明治 40・4	南佐久郡臼田町
福島県立相馬農蚕学校	明治 40・5	相馬郡原町
宮城県加美農蚕学校	明治 41・3	加美郡中新田村
福島県東白川農蚕学校	明治 41・4	東白川郡棚倉町
東京府立府中農蚕学校	明治 42・4	北多摩郡府中町
兵庫県立佐用農蚕学校	明治 42・4	佐用郡作用村
長野県組合立南安部農蚕学校	明治 43・4	南安曇郡梓村
長野県埴南農学校	明治 43・4	埴科郡坂城町
愛甲農蚕学校	明治 44・3	神奈川県愛甲郡荻野村
長野県組合立龍東農蚕学校	大正 2・2	下伊那郡喬木村
佐賀県立神崎農学校	大正 4・3	神崎郡西郷村
佐賀県立西松浦農学校	大正 5・10	西松浦郡二里村
埼玉県飯能実業学校	大正 7・3	入間郡飯能町
島根県立大社実業学校	大正 9・3	簸川郡大社町
広島県立戸手実業学校	大正 9・3	蘆品郡戸手村
宮城県伊具農蚕学校	大正 9・4	伊具郡丸森町
島根県立川本農蚕学校	大正 13・1	巴智郡川本村
石川県立津幡農蚕学校	大正 13・3	河北郡津幡町
鹿児島県加世田農学校	大正 15・2	鹿児島県加世田町
鹿児島県志布志高等実践女学校	大正 15・6	鹿児島県志布志町
米子商蚕学校	昭和 3・3	鳥取県西伯郡大高村

出典：出典：大日本蚕糸会編纂部「蚕糸要鑑」
PP. 290～292. (1930年)

明治 40 年度までに設立された中等教育学校の事例を見れば、養蚕学科のある甲種農学校は 32 校、甲種蚕業学校 6 校、乙種農学校 79 校があった。

これらの学校の中でも長野県小県蚕業学校、福島県立蚕業学校、山梨県立蚕業学校、静岡県浜名郡立蚕業学校、群馬県立蚕糸学校、私立甲種高山社蚕業学校などは有名校であった。

このように明治から大正時代にわたり多くの府県に蚕業学校や農蚕学校、農学校が設置され盛んに養蚕の中等教育が行われ、農家の後継者や蚕糸業界で活躍した技術者を多数輩出し蚕糸業を支えてきた。

1911（明治 44）年に蚕糸業法が施行されて以降、道府県に原蚕種製造所（大正 11 年に道府県の蚕業試験場に改称）が設置されると、ここに蚕業講習所が併設され、養蚕技術者の育成がされるようになった。

また、民間の蚕種製造会社や製糸会社、各府県の郡養蚕同業組合などによる私立蚕業講習所や伝習所が設置され、養蚕技術者や農家の後継者育成が行われた。全国各地に設立された私立蚕業講習所、伝習所は紙面の都合上ここには掲出しなかったが、この一部を紹介しよう。

これら講習所等の講習期間は、各所によって異なり短い事例では長野県にあった普及団蚕業講習所、福島県にあった伊達郡蚕

種同業組合梁川蚕業講習所などは 6 箇月、長い所では東京の合資会社紅林蚕業講習所、成進社石川蚕業講習所などは 3 箇年であった。講習期間が 1 箇年あるいは 2 箇年の所もあり、愛知県岡崎にあった三龍社蚕業講習所のように講習期間を定めない所もあった。このように私立蚕業講習所、伝習所の講習期間はそれぞれ異なっていた。

一方、蚕糸の高等教育機関に目を向けてみると、長野県上田に 1910（明治 43）年上田蚕糸専門学校（現在の信州大学繊維学部）が創立された。東京には蚕業試験場から 1896（明治 29）年に蚕業講習所（後の東京蚕業講習所）を経て 1914（大正 3）年に東京蚕糸学校（現在の東京農工大学）が誕生した。京都には 1899（明治 32）年開設された京都蚕業講習所（後の京都蚕業学校）が 1914（大正 3）年からは京都高等蚕糸学校（現在の京都工芸繊維大学）になった。鹿児島には 1908（明治 41）年に鹿児島高等農林学校（現在の鹿児島大学）が設立され、その後 1920（大正 9）年に養蚕学科を設置し蚕糸教育を開始した。

東京、九州、北海道の旧帝国大学には養蚕学の講座が置かれ蚕糸教育を始めた。

このようにして明治・大正時代から国内各地に蚕糸教育施設が設置され、蚕糸関係の技術者、研究者、農家の後継者などを育成し蚕糸業の振興に努めた。

その20 蚕糸業法の制定と廃止

蚕糸業法は明治末期に制定されたが、これ以前の歩みから話すことにする。

幕末に横浜が開港され生糸貿易が始まると、粗製乱造の生糸が輸出されるようになった。更に蚕種が輸出されるようになると、同様に粗製乱造の蚕種が海外に渡り、生糸と同様に諸国から苦情が続出した。そのため、幕府やその後の明治政府は、その都度生糸や蚕種の取締り規則等を出して防止に努めた。しかしながら依然として粗製乱造生糸や蚕種の輸出が続いていた。

こうした粗製乱造問題を抱えながら、明治10年代になると、国内各地で微粒子病が発生するようになり放置しておくことができなくなっていた。

このため、1884（明治17）年に農商務省蚕病試験場を設置し検査と検査員の養成を行いだした。また、政府は微粒子病の発生が多くなっているために防除規則や法整備をすすめて、1885（明治18）年、微粒子病防除を目的に蚕糸業組合準則を發布し、本病の防止に取組み出した。しかし、翌1886（明治19）年にはこれを廃止し、新たに微粒子病防除を目的にした蚕種検査規則を發布、蚕種製造者には鑑札を付与し、検査に合格した蚕種でなければ販売を禁止した。それでも各地では、かなりの微粒子病が発生し続けたため、1900（明治33）年に至って蚕種検査法を制定し全国画一的な防除に乗り出した。

しかし、養蚕業がますます盛んになると微粒子病だけに目を向けていられない問題が起きていた。優良生糸を生産するためには、微粒子病以外に多発している膿病^{のうびょう}、軟化病、硬化病、蠶蛆病^{きようそ}などの蚕病防除対策にも取り組まなければならなくなっていた。このため1905（明治38）年には蚕病予防法を制定し、これら病気を総合的に防除し蚕作の安定をはかることにした。

しかし、輸出品の主力である生糸を生産している我が国にとっては、蚕糸業の振興をはかる上から蚕病防除の法整備のみでは不十分なため、従来から叫ばれてきた優良蚕品種に基づく良質な生糸の生産を行うことは避けて通れない重要課題であった。

こうした蚕糸情勢の中、帝国議会でも蚕品種統一建議案が提出され議論されるようになった。

政府はこうした議会の動きに対応し、生産調査会に蚕糸関係特別委員会を設けて、国立原蚕種製造所の設置と蚕品種統一へ向けての検討を行いだした。この検討結果は政府に答申され、国は明治44年から原蚕種配布を行う国立原蚕種製造所の建設にとりかかった。これに併せ原蚕種配布事業を法制面から補完するために蚕糸業法を議会に諮った。

同法案は1911（明治44）年2月4日、帝国議会に提起され、同年3月2日には衆議院を通過し、貴族院でも同月14日に可

決され、同月 28 日公布された。

本法では養蚕・蚕種製造・真綿製造・^{さつよう}殺蛹乾繭に携わる者をはじめ、蚕種や繭・屑物類の販売・仲立ち保管を業とするもの等、蚕糸関係者全体を対象に、業種や業務などによって、許可や免許・統制・検査・団体組織などについて法制化した。

以下、蚕糸業法の主要な条項を拾い出してみると、第 1 条には前述したように「本法ニ於テ蚕糸業者ト称スルハ養蚕、蚕種製造、生糸製造、真綿製造、殺蛹乾繭又ハ蚕種、繭、屑物類ノ販売、仲立若ハ保管ヲ業トスル者ヲ謂フ」と蚕糸業者を定めた。第 2 条では蚕種を他に譲渡する目的をもって製造するものを蚕種製造者と定め、第 3 条では微粒子病、軟化病、膿病、蠶蛆病を蚕病予防法と同様に蚕病に指定、第 5 条には蚕種製造者は地方長官の免許を受けること、第 7 条では蚕種製造者はこの法律に定められた特別蚕種より産出したものでなければ製造を認めないことなどを定めた。第 11 条には蚕種製造者は掃立殻、繭、出殻繭、蚕卵などの微粒子病検査を受けること、第 13 条には地方長官による蚕種検査と合格蚕種の證印を認め、不合格蚕種は焼却処分にすることを定めた。第 16 条では、蚕種製造者でない者は蚕種製造を行うことを禁止し、今までのような一般養蚕農家による自家用蚕種の製造を禁止した。第 22 条には府県に蚕病検査、蚕病予防の吏員を設置することを義務付けた。第 23 条には主務大臣や地方長官は必要に応じて種繭の審査及び原蚕種の選定を行うための種繭審査会を設置することを定め、優良蚕品種の選定、

育成、増殖に努めることにした。第 27 条には府県に蚕種検査料の徴収を認めた。第 28 条以下には蚕種製造者による同業組合連合会の設置と、同連合会による活動を定めた。この活動事例をみると、蚕種製造用具の共同購入、風穴蚕種の共同貯蔵、繭・蚕種の品評会や講習・講話会の開催、蚕業視察、原蚕種の製造並びに機関誌の発行などをあげることができる。あるいは製糸同業組合を設立し、女工雇入れの取締り、生繭取引や巡回指導、講習・講話会の開催などを行った。第 30 条から 34 条には蚕糸同業組合中央会の設置許可等について、第 37 条以下第 45 条までは本法律違反に対する罰則等を定めた。

本法は蚕種の統一をはかり優良蚕品種の普及と優良生糸の生産をめざして、これまでの法制度も取り込みながら蚕糸全般を見据えた法律として施行された。従って本法には、これまでの蚕病予防法や重要物産同業組合法の一部も取り入れられ、優良蚕品種の育成と普及に向って取り組むことになった。

しかし、この法制度の段階では、国家管理による優良蚕品種の統一にまで踏み込むことはしなかった。そのため、公布された蚕糸業法をみた学者の中には、一番ねらいとする蚕品種統一に対処する条文は色付け程度で、蚕品種統一の目的を達成することはできない条文内容だと厳しい批判をしたものも現れた。

結果的には徹底した優良蚕品種の管理ができないまま、多品種の出回る中で生糸生産が続けられ昭和時代へ入っていった。

蚕品種が国家管理されるようになったの

は 1934（昭和 9）年からのことであった。同年 2 月帝国議会に原蚕種管理法案が上程され、翌 3 月には成立し直ちに公布された。

政府が本法によって蚕種の統制を直接行うことになった。具体的には政府が原蚕種の製造と管理を行う（第 1 条）ことになった。政府は原蚕種の元となる原々蚕種の製造を行い（第 3 条 1 項）、これを府県に配布し、府県から蚕種製造者に配布する（第 3 条 2 項）ことになった。政府以外による原々蚕種の製造・配布・譲渡は禁止され、国家管理することになった。

幕末の開港以来の大きな不良生糸問題は、本法の施行によって、これまでの不良蚕品種が整理され解決の第一歩を踏み出した。

ところで蚕糸業法はその後、1917（大正 6）年 7 月、1929（昭和 4 年）3 月、1931（昭和 6）年 3 月、1934（昭和 9）年 3 月、1936（昭和 11）年 5 月に改正された。

戦後、原蚕種管理法、輸出生糸取締法、戦時対応の蚕糸業統制法は廃止され、蚕糸業法が昭和 20 年 12 月に全面改正され公布された。

この主な内容をみると、主務大臣に蚕糸業に関する主要な権限が与えられ、蚕種製造者の許可、原々蚕種の品種及び普通蚕種の交配形式を定めること、蚕種の輸出許可、蚕糸業の需給調整・価格安定・輸出振興上必要な命令を出すこと、日本蚕系統制会社や日本中央蚕糸会解散の日指定による解散などが定められた。また、行政官庁による桑苗検査や都道府県の繭検定に基づく繭の売買取引、生糸検査所の検査に基づく生糸輸出、蚕糸業の改良発達を図る蚕糸協同組

合の設立と組織運営、蚕糸業会の設立などが定められ、戦後の新たな蚕糸業の展開が始まった。

本法はその後、必要に応じ改正（昭和 22・23・24・25・28・29・32・37・41・47・53・55・58 年、平成 9 年）され運用されてきた。

戦後の蚕糸業の秩序を保持してきた本法であったが、遂に 1998（平成 10）年 4 月 1 日をもって廃止になった。

この廃止は蚕糸業が衰退したとはいえ、業界の大きな歴史的流れを変えることになった。

謝辞

長い間「蚕糸・絹業史のひとコマ」を執筆してきましたが、本号をもって筆を置くことにしました。

紀元前からの蚕糸業史・絹業史の歩みの中から、今後も拾い出して「ひとコマ」を書いていると、想像もつかない回数と年月が必要になります。このようなことを高齢の筆者一人ではできません。従ってここで一区切りとさせていただくことにいたしました。

大変長い間ご講読いただいた読者の皆さんに感謝申し上げますと共に、ご支援ご協力をいただいた（一財）大日本蚕糸会の皆さんに厚く御礼申し上げます。

著者

全国シルクビジネス協議会 新用途分科会の活動

東京農工大学大学院工学研究院

准教授 中澤靖元

1. 分科会の目的・体制

全国シルクビジネス協議会の分科会として設置された「新用途分科会」は、シルクを基盤とした革新的な材料開発を推進するとともに、集積したシルク新素材に関する知見を社会実装し、新産業の創出へと発展させることを目的とした分科会である。

これまでの絹糸の利用方法は衣料品等、非常に限定的なものであった。近年シルクの成形加工法が多種考案され、様々な形状のシルク素材を作製することが可能となっている。図1にシルク加工法の一例を示す。

上述のような加工シルクは、繊維製品である衣料品のみならず、食品、化粧品、環境、化学、メディカル等の産業分野に応用できる可能性を秘めている。

そこで本分科会では、シルクの加工法や、物性制御、機能性付与等によるシルク新素材開発に携わる研究者や関連企業と連携するとともに、様々な業種、産業分野への橋渡しを行う。本分科会内において、生産者、研究者、関連企業による研究コンソーシアムの設置や業務提携がなされ、実用化・産業化につなげられるよう種々の取組を実施する。

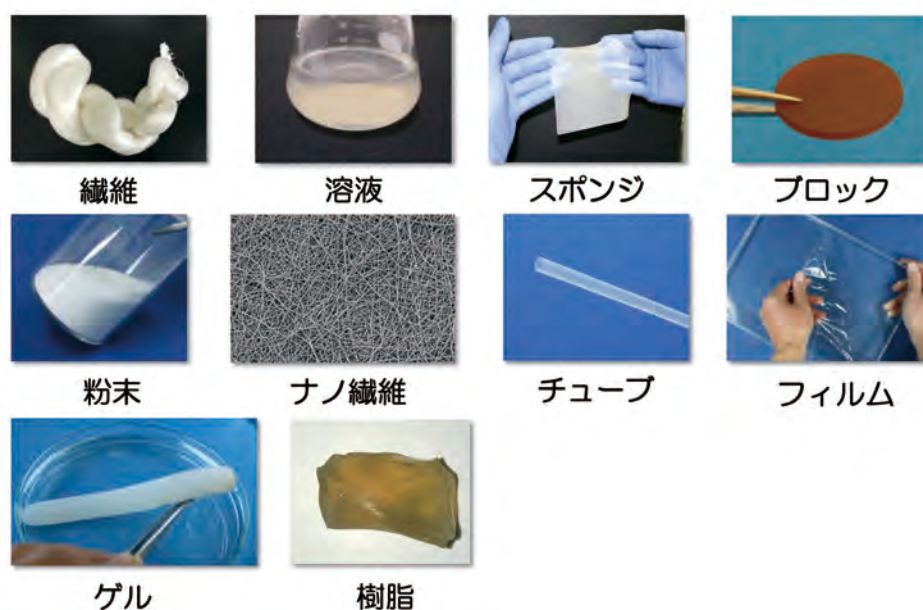


図1 シルク加工法の一例

2019年9月現在の分科会運営委員は下記の通り。（*は主査、†は副主査）

中澤 靖元*	東京農工大学・大学院 工学研究院
亀田 恒徳†	農研機構生物機能利用 研究部門 新素材開発 ユニット
浅沼 章宗†	興和（株）興和先端 科学研究所
大関 孝浩	株式会社シルクモア 研究所
河合 崇	（株）リバーズプロジェ クトトレーディング
玉田 靖	信州大学繊維学部
太良 修平	日本医科大学・心臓血 管集中治療科
西 博顕	アーダン化粧品株式会社

2. 今後の計画

本分科会では、目標達成のため、下記の事業を計画している。

(1) 分科会会員の増強

本分科会において会員交流は最も重要である。シルク素材化に関する基礎研究を実施している研究者、シルク関連企業、また、今後シルクを用いた事業を検討中の企業に対して入会を奨め、会員間交流を活発化させる。

(2) シルク新素材に対するコンセプト設計

主査、副主査、運営委員を中心に新用途技術や製品の候補について協議を実施する。

必要に応じて会員によるワーキンググループを設置し、社会実装にむけた具体的方策を議論する。

(3) 医療機器・化粧品・食品・繊維製品・化学等、各種業界へのヒアリング

各業界の企業数社を訪問し、シルク素材の実用化に関する可能性や問題点について意見交換を実施する。また、シルク素材に対する興味を持っていただく。

(4) 農林水産省 知の集積と活用[®]の研究開発プラットフォームとの連携

農林水産省 知の集積と活用[®]に設置されている「シルク付加価値向上を目指した革新的材料開発プラットフォーム」と密に連携した事業を実施する。シンポジウムの開催や会員間交流イベントや研究コンソーシアムの設置等については、互いに分担しながら進める。

(5) 会員間交流活動の実施

異業種、異分野の会員の交流は、イノベーション創出に重要な要素である。本分科会は、年2回程度のシンポジウムや会員間交流イベントの実施を計画している。また各種交流会を通じて、研究コンソーシアムや事業提携への発展につなげられるようサポート体制を構築する。

以上のとおり、全国シルクビジネス協議会・新用途分科会は、シルクの新用途開発に関するシーズとニーズのマッチングを促進し、シルクを基盤材料とした新産業創出を図り、我が国のシルク産業復興の一助を担えるよう活動する。

京都織物卸商業組合 創立 50 周年を迎えて

京都織物卸商業組合

常務理事 大坪 宏

組合の設立

京都織物卸商業組合は、前身である社団法人京都織物卸商協会と京都綿スフ織物卸商業組合が中心となり、他の組合に呼びかけ、大阪通商産業局（現：近畿経済産業局）より認可を受け、1969 年 9 月に出資組合として設立し、京都室町問屋街の象徴的な振興拠点として建設した京都産業会館で、地域経済の発展に寄与して参りました。

基本理念

3つの基本理念である「一致・創造・奉仕」を軸に、染織文化の発展と豊かな生活の創造を目指して半世紀にわたり活動をしてきました。

「一致」とは、ひとつになること、心と同じくすることです。京都室町の繁栄をもたらそうとする意識を共にする同志的結合体でなければならないという意味です。「創造」とは、新しいものを創りはじめることです。模倣や追従ではなく、常に自らの工夫によって新しいものをつくり、あるいはとり揃えることを使命とする意識を高める指導的統合体でなければならないという意味です。「奉仕」とは、謹んでつかえることです。献身的に社会につくすことであり、



外観北西面

売って喜ばれ、買って喜ばれ、使って喜ばれる商売こそ繁栄に繋がるという信念で、奉仕こそが生きがい働きのことを理想とする意識を育てる友好的共同体でなければならないという意味です。

これまでの事業展開

50 年を振り返り組合設立初期段階では、結束を深め基盤強化をすることで減速経済に対応するとともに、取引改善や品質管理、商品開発などの卸商の社会的強化に向けた活動を中心に進めてきました。主な事業としては「染織フェスティバル」や「京都プリントファッション」、「染と織の祭典」、「京

都スコープ」、「きものひとりだち」などです。

中期に入ると、和装では中振袖のセット販売が好調できものに馴染みの少ない層にも需要が開拓され、洋装でも新規ブランドラッシュの傾向が顕著となり、室町がすすめてきた減量合理化の成果が十分に発揮され、他産地では見られない強い企業体質が作り上げられました。主な事業としては「きものグランプリ」や「建都 1200 年」、「室町市場振興ビジョン策定」などです。

後期では、和装産業の未来を見据えて多様化する消費マーケットへの対応、中抜きという流通改革に消費者起点で積極的なマーケティングを展開、一部でみられたコンプライアンス違反となる呉服販売が業界に波紋を広げました。洋装ではファストファッションと高級ブランドの二極化構造が顕著となり、寝装では健康関連製品への関心が高まり、快眠を訴求した商品開発が活性化しました。主な事業としては「和装前売合同商談会」、「きもの解放区」、「おしゃれコンサート」の他、「きものステーション・京都」を情報発信基地としてオープンしました。

50 周年事業

本年度 50 周年を迎えた記念事業としては、京都室町の歴史と伝統と文化をキーワードに“大切なことは当たり前の中にある。これまでの半世紀、これからの半世紀”と題し、各種事業の計画を展開します。

振興拠点であった京都産業会館を建て直し、京都経済 100 年の計として次代に継承



THE KIMONO_ 冊子表紙

するために建設された“京都経済センター”のこけら落としを兼ねて 2019 年 3 月に展覧会を開催しました。この展覧会は「THE KIMONO Styled&Restyled ～ファッションとしてのきもの 1300 年～」をテーマに、女性たちが駆け抜けた日本の歴史 1300 年をファッションという観点から振り返り、未来へと繋げるものとなりました。奈良時代から江戸時代後期の衣装は、昭和初期に京都四大祭りといわれた「染織祭」で制作された復元女性時代衣装を軸に、明治時代から現代は老舗呉服商に伝わる婚礼衣装、そしてきものフィロソフィーを踏襲した未来の衣服は若手デザイナーより提案されま

した。2週間という短期間開催でありながら、4,000人以上の方にご来場頂きました。11月には青年部を中心に「きもの de 婚活」事業など多くの事業に取り組み、12月には室町の基盤を築きあげた先人への感謝を踏まえ、記念式典や祝賀会の開催、2020年2月には歴史を学び室町の歴史を振り返るため、記念誌を発刊します。

これからの組合運営

京都織物卸商業組合の50年は、先人た

ちの力の結集による歴史です。先人たちは様々な問題や重要な課題に取り組み乗り越えてきました。京都経済センターという場所に京都の経済団体が集結し、それぞれが知恵を出し合うことで、これまでの繊維業界単体の発信だけではなく、オール京都として発信することがこれからの課題だと考えています。

今一度、設立当初に掲げた「一致・創造・奉仕」の基本理念に立ち返り、次の半世紀に向けて業界を再興していきたいと思います。

イベント情報

●ジャパンシルクセンター

純国産宝絹 試作品展

純国産の特徴と蚕糸・絹業提携グループ個々の技術を生かし、毎年製品開発を行っています。今回は、提携グループと東京モード学園による産学共同で和素材（反物）を利用したドレス他の開発に挑戦しました。

〈会期〉 2月3日（月）～6日（木）10:00～18:00

2月7日（金） 10:00～17:00

〈主催〉 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

〈協力〉 東京モード学園 純日本の絹文化協会「松岡姫」グループ（（株）伊と幸）
絹を未来に（（株）マルシバ）

〈会場〉 ジャパンシルクセンター 〒100-0006 千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 1 階

Tel: 03-3215-1212

●「美しいキモノ アカデミー」特別出張講座

「正倉院の染織宝物と模造復元事業について」

「美しいキモノアカデミー」特別出張講座が蚕糸会館で開催されます。

今回の講座は、宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室長 田中陽子氏による講演会「正倉院の染織宝物と模造復元事業について」です。（参加応募は締め切られています）

〈日時〉 2月7日（金）13:00～14:30

〈講師〉 田中陽子氏（宮内庁正倉院事務所 保存課保存科学室長）

〈受付・会場〉

蚕糸会館 6 階 会議室 〒100-0006 千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館

●岡谷蚕糸博物館 企画展「運ぶ。蚕糸業を支えたモノの流れ」

繭を、生糸を、石炭を、人を運ぶ。電信・電話で情報を伝える。岡谷が日本一の製糸業地となった背景には、インフラの整備とともに様々な「運ぶ。」がありました。

運ぶことで見える産業の発展の姿にスポットを当てます。

〈会期〉 2020 年 1 月 23 日（木）～5 月 17 日（日）9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27～1/3 その他臨時休館あり

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●シルク博物館 シルク・サロン ～学芸員による講座～
蚕や絹、染織品など多彩な話題をわかりやすく解説

第1回「いろいろなシルク」

さまざまなシルク生地にふれてみましょう。

〈日時〉 1月26日（日）14：00 （受付 13：30～）

〈講師〉 大野美也子

第2回「蚕の飼育展示のひみつ」

博物館での蚕の飼育展示についてお話しします。

〈日時〉 2月9日（日）14：00 （受付 13：30～）

〈講師〉 佐野遊海

第3回「かながわの養蚕信仰」

昭和初期の神奈川県下での養蚕のようすと養蚕信仰についてお話しします。

〈日時〉 3月8日（日）14：00 （受付 13：30～）

〈講師〉 高橋典子

* 各回とも、参加費は無料ですが、別途入館料が必要です。

〈主催〉 シルク博物館

〈会場〉 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地

Tel: 045-641-0841

●日本絹の里 第90回特別展〈富岡製糸場と絹産業遺産群〉世界遺産登録5周年記念展示
「絹遺産を支えた人々への追憶」

2014年6月に〈富岡製糸場と絹産業遺産群〉が世界文化遺産に登録されてから5周年を迎えたことを記念して、4つの構成資産について紹介します。特にそれらの資産で活動していた人たちにもスポットを当て、当時の日常生活などを紹介します。

〈会期〉 2019年12月21日（土）～2020年2月3日（月）9：30～17：00

休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）、12/27～1/5 * 1/3 臨時開館

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1

Tel: 027-360-6300

2019 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2019 年度第 3 次審査委員会を 2019 年 11 月 22 日（金）に開催しました。今回の申請は 13 者で、新規 1 者 1 品目、使用許諾されている 12 者のうち製品の追加 3 者 3 品目、履歴の追加 3 者 6 品目、数量の追加 10 者 17 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、13 者 27 品目に対し、11 月 29 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 宮田織物（株） 代表者名：宮田浩次 (担当者：宮田晃吉) 〒 603-8371 京都市北区衣笠東御所ノ内町 48-2 TEL：075-462-5050 表示者登録番号 234	先染帯地（袋帯） (特例)	100 本	蚕品種 春嶺×鏡月 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 撚 糸 岩城建一 製 織 自社
(製品・履歴・数量の追加) (株) やまと 代表者名：矢嶋孝行 (担当者：野崎慎吾、大倉望) 〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-27-3 TEL：03-3354-0345 表示者登録番号 059	(製品の追加) 和装小物（帯揚）	2,100 枚	蚕品種 ぐんま 200、春嶺×鐘月 繭生産 JA 甘楽富岡・JA おやま 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 前満織物 染 色 谷口染工
	(履歴の追加) 白生地表地 (加賀友禅用)	349 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 撚 糸 岩城建一、弥栄撚糸、 製 織 大橋撚糸工場 江原産業（株）
	(数量の追加) 先染着尺表地 (加賀友禅用)	48 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 JA しおさい・JA おやま管内 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 撚 糸 大橋撚糸工場、弥栄撚糸 染 織 無重織物（株）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) (株) 紅輪 代表者名：丸山実 (担当者：宮島徳剛) 〒 213-0002 川崎市高津区二子 3-31-3 MK グループニ子ビル 4 階 TEL：044-281-4529 表示者登録番号 069	白生地 (表地 (紋意匠))	150 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 (株) アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合 【表示者名：(株) 紅輪 まるやま・京彩グループ】
(履歴の追加) (株) ソーホー 代表者名：奥村尚司 (担当者：藤原浩充) 〒 600-8357 京都市下京区猪熊通五条下る柿本町 606-1 TEL：075-353-8802 表示者登録番号 200	白生地 (表地)	100 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 戸田織物 精 練 丹後織物工業組合
(数量の追加) 柳崇 代表者名：柳崇 (担当者：柳崇) 〒 154-0023 東京都世田谷区若林 5-29-19 TEL：03-3975-2917 表示者登録番号 042	先染反物 (訪問着・色無地等)	20 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 燃 糸 自工房 染 織 自工房
	先染帯地	80 本	
(製品・数量の追加) 児玉京子 代表者名：児玉京子 (担当者：児玉京子) 〒 907-1541 沖縄県八重山郡竹富町上原 339-15 TEL：0980-85-6670 表示者登録番号 043	(数量の追加) 先染反物	5 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 燃 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
	(製品の追加) 先染帯地	12 反	

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) 祝嶺染織研究所 代表者名：祝嶺恭子 (担当者：祝嶺恭子) 〒 902-0078 沖縄県那覇市識名 1-17-15 TEL：098-933-1010 表示者登録番号 046	先染反物	8 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房 【表示者名：祝嶺染織研究所 祝嶺恭子】
	先染帯地	30 本	
(数量の追加) からん工房 代表者名：深石美穂 (担当者：深石美穂) 〒 907-0453 沖縄県石垣市字川平 1175 TEL：0980-88-2459 表示者登録番号 048	先染反物	12 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房 【表示者名：からん工房 深石美穂】
	先染帯地	30 本	
(数量の追加) アトリエ I T O 代表者名：伊藤 (山城) 峯子 (担当者：伊藤峯子) 〒 903-0815 沖縄県那覇市首里金城町 4-6 TEL：098-884-6321 表示者登録番号 193	先染反物	8 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房 【表示者名：アトリエ I T O 伊藤峯子】
	先染帯地	35 本	
(数量の追加) 村江菊絵 代表者名：村江菊絵 (菊江) (担当者：村江菊江) 〒 152-0031 東京都目黒区中根 1-6-20 TEL：03-3717-7678 表示者登録番号 214	先染帯地	20 本	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) 柳晋哉 代表者名：柳晋哉 (担当者：柳晋哉) 〒154-0023 東京都世田谷区若林 5-29-19 TEL：03-3975-2917 表示者登録番号 223	先染反物	20 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 自工房 染 織 自工房
	先染帯地	80 本	
(履歴・数量の追加) (株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当者：上坂典弘) 〒604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 TEL：075－211－2531 表示者登録番号 001	(履歴の追加) 後染反物 (黒留袖)	60 反	繭 生 産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 河藤 (株) 染色加工 自社
	(履歴の追加) 後染反物 (訪問着・付下)	85 反	
	(数量の追加) 後染反物 (振袖)	20 反	繭 生 産 岩手県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 篠春織物 (株) 染色加工 自社
	(数量の追加) 後染反物 (色無地)	45 反	繭 生 産 山形県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染色加工 自社
	(数量の追加) 後染反物 (訪問着・付下)	90 反	繭 生 産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染色加工 自社
	(履歴の追加) 後染反物 (訪問着・付下)	45 反	繭 生 産 福島県・山形県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染色加工 自社
	(履歴の追加) 後染反物 (振袖)	40 反	繭 生 産 宮城県・山形県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 美雲織物 (株) 染色加工 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) 大橋メリヤス 代表者名：大橋弘 (担当者：大橋弘) 〒 376-0013 群馬県桐生市広沢町 2-3300-2 TEL：0277-54-1406 表示者登録番号 233	ニットストール (市松柄)	40 枚	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 北群渋川管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 染 色 小池染色(有) 製 編 自社

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。
 純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2019 年度第 4 次：2020 年 2 月 26 日（水）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2020 年 1 月 24 日（金）

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、廣瀬、小林

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2019年11月29日（2019－第3次）現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(有) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢（株）)	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖）、後染帯地、白生地（表地）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	(株) 高島屋	大阪府中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、 白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物（色無地、黒紋付）
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物（色無地、黒紋付）
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物（色無地、訪問着）、白生地（表地、胴裏、帯地）、 白生地（表地（天蚕糸交織））、白生地（帯地（天蚕糸交織））、 婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物（色無地、黒紋付）
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地（袋帯）
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物（色無地、黒紋付）
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超える）、 先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物（紋紬、緋）、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物（色無地（変三越、駒紬））
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物（色無地、黒紋付）
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）、 白生地（加賀友禅用）、先染着尺（加賀友禅用）、和装小物 （帯揚）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚げ)
069	(株) 紅輪 ((株) 紅輪 まるやま・京彩グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市長区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗)、ネクタイ、帯地 (白塩瀬)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福純織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品（布団、膝かけ）、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））、ニット（靴下）
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物（置賜紬）、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物（大島紬）、先染帯地（大島紬）
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地（八寸名古屋帯）
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット（腹巻、靴下）
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物（小紋（変一越））
182	京呉服好一（株）	京都市北区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏（パールトーン加工）
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物（小紋（変一越））
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物（小紋（変一越））
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、訪問着）、先染反物（緋着尺）、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地（表地）、帯締、羽織紐、帯締（金銀糸が 5%を超えるもの）、ジャケット地
188	青山きもの（株） （青山きもの学院）	東京都港区	白生地（表地、夏物表地）
189	ニット青木（株）	東京都品川区	ニット（スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー）
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物（綾御召（男物、女物）、市松綾御召（草木染め）、もじり織（草木染）、もじり織）、裏地（紬八掛、駒八掛）、先染ストール（綾織草木染、もじり織草木染）
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物（小紋（変一越））
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物（ぼかし着尺）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地（紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬）、後染反物（本加賀訪問着）、先染反物（大島紬）、先染帯地（袋帯）、先染反物（御召）
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物（訪問着・色無地）、白生地（表地）
202	メーカーズシャツ鎌倉（株）	神奈川県鎌倉市	ニット（肌着）
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地（胴裏絹）
204	(株) 緒方商店 （きもの心おがた）	愛媛県八幡浜市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
205	富士新幸（株）	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物（色無地・藍染）
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地（変一越）
208	(株) ADESSO （きもの工房一休）	神戸市中央区	白生地（変一越）
209	森秀織物（株）	群馬県桐生市	先染反物（御召）
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地（本袋帯（金銀糸が5%を超えるもの））
211	(株) 長沼 （長沼静きもの学院）	東京都渋谷区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物（株）	鹿児島県鹿児島市	先染反物（大島紬、本場大島紬 12 マルギ）
214	村江菊絵（菊江） （村江菊絵）	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業（株）	東京都中央区	ニット（靴下）
216	村田捺染加工（有）	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物（訪問着、小紋、色無地）
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物（首里織）、先染帯地（首里織）
220	万兵（株）	名古屋市中区	白生地（表地）
221	横山（株）	京都市中京区	後染反物（小紋・訪問着）
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地（表地）
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地（表地）
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物（小紋・訪問着）、白生地（帯地）
226	山口美術織物（株）	京都市山科区	白生地（表地・羽二重）
227	(株) 大醐	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地（名古屋帯、袋帯（金銀糸が5%を超えるもの））
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地（表地）
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物（御召）、先染帯地（名古屋帯（組帯））
232	ウライ（株）	京都市下京区	後染反物（小紋）、後染帯地（袋帯（表地のみ））
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	ニットストール
234	宮田織物（株）	京都市北区	先染帯地（袋帯（金銀糸が5%を超えるもの））

一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 No. 64 (R 元 .10.1 ~ R 元 .12.31)

月日	活 動 内 容 等
10/ 3	第 6 回大日本蚕糸会の助成事業のあり方検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/ 3 ~ 6	「シルクと私。有楽町で逢いましょう! 第 2 弾」展示会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/10 ~ 11	小石丸生糸に関する打合せ等 (京都・大阪府)
10/25 ~ 28	純国産生糸振興・西陣織物作品展 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/28 ~ 29	稚蚕共同飼育に関する打合せ (福島県)
10/30	令和元年度第 1 回全国シルクビジネス協議会幹事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/ 1 ~ 2	千總純国産絹製品グループ主催の養蚕農家研修会への参加 (栃木県)
11/ 2 ~ 5	伝統工芸ふれあい広場・岩手への協力 (岩手県)
11/ 5	遺伝子組換えカイコ事業に関する打合せ (群馬県)
11/ 6	蚕糸功労者表彰式 (帝国ホテル)
11/ 8	シルク・サミット 2019 in 紬のまち結城 (茨城県)
11/22	純国産絹マーク審査委員会 (令和元年度第 3 次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/25	第 7 回大日本蚕糸会の助成事業のあり方検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/30 ~ 12/2	御料生糸に関する打合せ (愛媛県)
12/ 6	役員・評議員懇談会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
12/ 9 ~ 10	伊勢神宮農事功労者表彰式への参加 (三重県)

第8回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール出品を募集

第8回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールを下記のとおり実施します。

なお、このコンクールは、令和2年度（第59回）農林水産祭参加の一環として実施します。
積極的な参加をお願いします。

記

1 開催の目的

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資する。

2 応募方法・応募先

応募は、出品財として蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体の何れかを選択し、蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局に直接郵送か、各県蚕糸主務課又は各県蚕糸絹文化活性化推進事業事務局を通じてご応募をお願いします。

- | | |
|----------|---|
| 3 応募期間 | 令和2年2月1日～令和2年3月15日まで |
| 4 審査・表彰日 | 審査会 令和2年4月上旬
表彰式 令和2年5月中旬
表彰場所 東京都千代田区 蚕糸会館 |
| 5 表彰内容 | 農林水産大臣賞1点、農林水産省生産局長賞1点
一般財団法人大日本蚕糸会会頭賞3点以内 |
| 6 審査員 | 一般財団法人大日本蚕糸会事業審査委員会の審査員 |
| 7 主催者 | 一般財団法人大日本蚕糸会 |

（問い合わせ先）

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館
一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局

担 当：廣瀬隆登、菊池 清、小林栄一

T E L：03-3214-3411

E-mail：kikuchi@silk.or.jp（菊池 清）

kobaei@silk.or.jp（小林栄一）

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部分子昆虫学研究室 <http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/>
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室 <http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山
美馬蚕糸館

<http://komagane-silk.com/>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>
<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量		○		
(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	46
(2) 養蚕農家数の推移	47
(3) 繭生産数量の推移	48
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	49
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	50
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	
(11) 製糸工場の原料繭需給	51
(12) 製糸工場の操業状況	52
(13) 生糸在庫数量の内訳	53
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	
(15) 生糸の原産国別輸入数量	
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	
(18) 絹織物生産数量	54
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	55

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	57
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	
(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	58

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 （保有台 数） Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
（平成）								
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	6	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	9	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	9	34	—	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017 (29)	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018 (30)	293	110	375	0.3	8	46	—	2,120
前年比 (%) 2018/2017	87.2	88.0	100.9	100.0	100.0	164.3	—	96.6

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び（一財）大日本蚕糸会調査、2011年以降は（一財）大日本蚕糸会調査である。

・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は（一財）大日本蚕糸会調査である。

・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は（一社）日本絹人織機物工業会調査である。

（注）2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
2018		293	254	179	262
前年比(%) 2018/2017		87.2	82.7	89.1	93.6

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕
	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002	880	330	231	320	373	166	134	167
2003	775	313	210	253	374	167	140	144
2004	675	256	176	243	369	158	128	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2006	505	209	122	173	375	172	143	157
2007	433	175	110	148	371	166	152	150
2008	382	147	96	139	374	158	157	162
2009	327	124	85	118	357	152	131	156
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
前年比(%) 2018/2017	88.0	87.2	82.8	93.9	100.9	105.4	92.9	100.3
2018年 構成比(%)	100.0	37.3	21.8	41.8				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.

National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.

The Dainippon Silk Foundation（2009年～）.

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second		計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	178	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
前年比(%) 2018/2017	86	100	—	82	63	76	94	83	82	122	—	—	93	155	78	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2010		240	299	263
2011		189	162	237
2012		185	209	183
2013		142	137	188
2014		128	158	158
2015		116	159	115
2016		115	110	120
2017		103	120	103
2018		92	117	78
2017 —	1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	9	105
	8	12	9	108
	9	1	12	97
	10	33	11	119
	11	8	12	115
	12	0	12	103
2018 —	1	0	9	94
	2	2	8	88
	3	0	11	77
	4	0	8	69
	5	0	12	57
	6	18	10	65
	7	20	8	77
	8	9	8	78
	9	0	11	66
	10	36	11	91
	11	8	10	89
	12	0	11	78
2019 —	1	2	9	71
	2	0	10	61
	3	0	9	52
	4	0	7	45
	5	0	7	38
	6	18	8	48
	7	13	8	53
	8	14	4	63
	9	0	9	54

資料：農林水産省生産局（～2010. 3）中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～2012. 11）

中央蚕糸協会（2012. 12～2018. 10）（一財）大日本蚕糸会（2018. 11～）

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010. 3）.

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010. 4～2012. 11）.

Central Raw Silk Association（2012. 12～2018. 10）. The Dainippon Silk Foundation（2018. 11～）

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

項目 Item 年 月 Year & Month	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
		運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year						
2010	7	118	58	49	247	73
2011	7	110	57	52	252	65
2012	7	110	39	35	243	56
2013	9	110	38	31	249	58
2014	9	110	38	34	261	58
2015	8	110	33	30	263	53
2016	8	110	29	26	267	57
2017	8	110	31	28	266	54
2018	8	74	34	46	253	54
2017 - 1	7	110	33	30	19	51
2	7	110	31	28	22	51
3	6	110	19	17	23	42
4	6	110	21	19	23	48
5	7	110	33	30	23	58
6	8	110	32	29	23	62
7	7	110	21	19	24	52
8	6	110	35	32	22	48
9	7	110	38	35	23	59
10	8	110	34	31	22	62
11	7	110	36	33	22	61
12	7	110	41	37	20	59
2018 - 1	7	74	37	50	16	58
2	6	74	28	38	19	48
3	6	74	23	31	24	48
4	5	74	25	34	22	39
5	6	74	43	58	21	49
6	8	74	34	46	24	61
7	8	74	31	42	22	59
8	7	74	40	54	17	53
9	7	74	37	50	22	56
10	7	74	34	46	24	61
11	7	74	35	47	22	61
12	7	74	35	47	20	57
2019 - 1	7	74	36	49	20	56
2	6	74	36	49	20	52
3	7	74	34	46	21	56
4	6	74	21	28	20	42
5	6	74	19	26	21	42
6	7	74	26	35	21	45
7	7	74	23	31	18	46
8	7	74	14	19	17	45
9	7	74	32	43	21	51

資料：農林水産省生産局(～2010. 3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Central Raw Silk Association(2012. 12～2018. 10). The Dainippon Silk Foundation (2018. 11～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers
年 月 Year & Month				
暦 年 Calendar Year				
2010	3,329	319	2,354	656
2011	2,456	288	1,651	517
2012	2,180	124	2,056	
2013	1,712	110	1,602	
2014	1,653	78	1,575	
2015	1,410	94	1,316	
2016	1,406	130	1,276	
2017	1,747	156	1,591	
2018	1,330	230	1,100	
2017 — 1	1,447	129	1,318	
2	1,500	127	1,373	
3	1,634	124	1,510	
4	1,538	112	1,426	
5	1,550	123	1,427	
6	1,538	116	1,422	
7	1,484	107	1,377	
8	1,549	107	1,442	
9	1,705	119	1,586	
10	1,711	123	1,588	
11	1,722	138	1,584	
12	1,747	156	1,591	
2018 — 1	1,822	156	1,666	
2	1,737	158	1,579	
3	1,661	166	1,495	
4	1,540	161	1,379	
5	1,709	174	1,535	
6	1,647	184	1,463	
7	1,632	182	1,450	
8	1,560	188	1,372	
9	1,475	199	1,276	
10	1,440	216	1,224	
11	1,319	219	1,100	
12	1,330	230	1,100	
2019 — 1	1,355	230	1,125	
2	1,338	246	1,092	
3	1,524	239	1,285	
4	1,278	236	1,042	
5	1,428	239	1,189	
6	1,444	245	1,199	
7	1,441	242	1,199	
8	1,449	238	1,211	
9	1,371	239	1,132	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000m²)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2017 — 1	161	86	49	4	33	43	19	24	32
2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
3	187	96	56	4	36	52	23	29	39
4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
7	182	102	56	5	41	48	22	25	32
8	162	88	51	4	33	43	20	24	31
9	168	87	53	5	29	48	22	26	33
10	194	107	54	4	49	50	24	26	36
11	199	111	55	4	52	51	23	28	37
12	199	113	55	5	53	49	23	26	37
2018 — 1	168	98	52	4	42	41	20	22	28
2	175	100	52	3	44	46	22	24	29
3	176	89	55	3	31	51	25	26	36
4	190	104	54	4	46	51	25	26	35
5	188	101	51	4	46	48	23	25	39
6	194	102	50	4	48	54	24	30	38
7	170	88	49	4	35	47	22	25	35
8	157	84	48	4	33	43	20	23	29
9	156	83	52	4	27	46	22	24	27
10	182	101	55	4	42	51	23	27	31
11	181	101	51	4	46	50	24	26	29
12	177	100	49	4	47	51	23	29	27
2019 — 1	155	89	46	4	39	41	19	22	26
2	171	97	52	4	42	45	22	23	29
3	162	90	53	4	34	46	22	24	26
4	173	98	53	3	42	46	23	24	29
5	176	107	50	3	55	44	20	25	24
6	167	95	50	4	41	46	21	26	26
7	164	94	49	4	42	45	21	24	25
8	136	78	41	4	33	38	17	21	19
9	147	82	42	3	37	42	18	24	23

資料：(一社)日本絹人織織物工業会

備考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

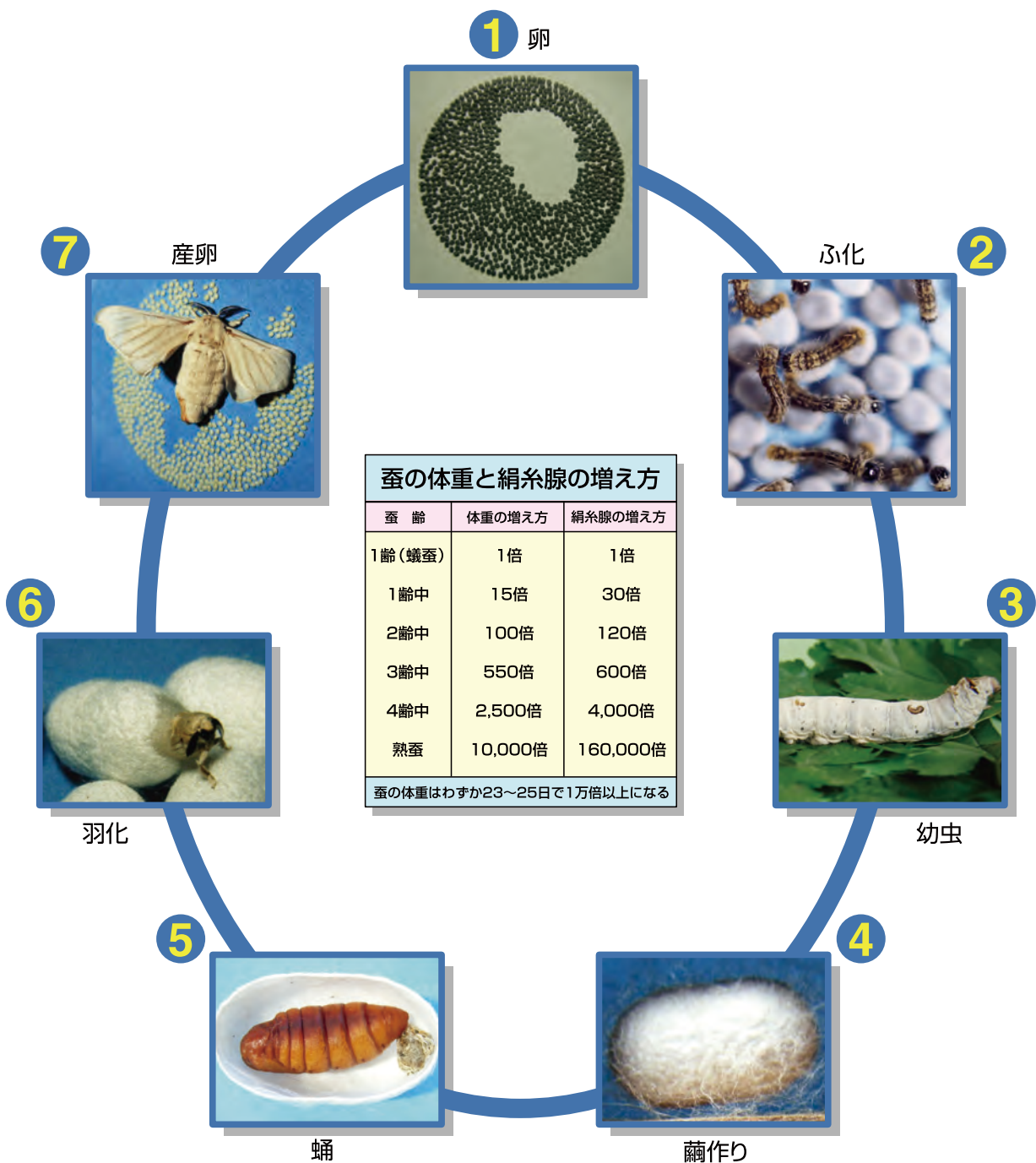
Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2017 - 1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	187	98.4	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8	162	100.6	19,448	90.0	2,652	80.3	30,977	94.7
9	168	98.2	26,458	99.4	3,039	95.7	39,274	107.5
10	194	103.7	25,167	94.5	3,164	94.3	38,479	100.8
11	199	104.7	23,926	96.3	3,049	94.0	41,467	104.8
12	199	105.9	25,672	91.1	3,164	123.8	42,670	110.0
2018 - 1	168	104.3	17,326	90.3	3,005	110.4	35,097	87.1
2	175	102.3	25,063	99.0	2,912	108.7	36,007	95.5
3	176	94.1	23,373	99.3	3,289	104.9	40,384	95.3
4	190	101.6	25,842	91.1	3,243	102.9	41,773	98.8
5	188	103.3	20,935	91.9	3,345	105.9	37,871	86.2
6	194	94.6	27,319	96.3	2,820	91.1	35,102	81.4
7	170	93.4	25,225	96.2	3,376	104.9	32,378	92.4
8	157	96.9	19,518	100.4	2,621	98.8	29,797	96.2
9	156	92.9	25,448	96.2	2,708	89.1	29,607	75.4
10	182	93.8	22,919	91.1	3,137	99.1	39,136	101.7
11	181	91.0	25,178	105.2	3,047	99.9	32,662	78.8
12	177	88.9	24,012	93.5	2,813	88.9	36,982	86.7
2019 - 1	155	92.3	15,850	91.5	2,510	83.5	31,925	91.0
2	171	97.7	24,978	99.7	2,783	95.6	31,878	88.5
3	162	92.0	21,859	93.5	2,728	82.9	34,578	85.6
4	173	91.1	23,299	90.2	2,616	80.7	33,794	80.9
5	176	93.6	14,796	70.7	2,526	75.5	33,197	87.7
6	167	86.1	25,926	94.9	2,523	89.5	34,972	99.6
7	164	96.5	21,364	84.7	2,364	70.0	28,371	87.6
8	136	86.6	16,997	87.1	1,808	69.0	28,344	95.1
9	147	94.2	24,336	95.6	2,194	81.0	34,001	114.8
10			19,204	83.8	2,007	64.0		
11			22,989	91.3	1,849	60.7		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会 主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver' s Association

蚕の一生



協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).

Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2As the figures of Vietnam(since2004) is not reported ,that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(4) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格

Spot Price of Various Silk Goods

2019年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	112.40 ~ 127.00	1,686 ~ 1,905
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	128.40 ~ 140.40	1,926 ~ 2,106
3	玉繭(double cocoon)		108.00 ~ 125.40	1,620 ~ 1,881
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	95.20 ~ 105.20	1,428 ~ 1,578
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	377.00 ~ 383.00	5,655 ~ 5,745
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	382.00 ~ 388.00	5,730 ~ 5,820
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	398.40 ~ 424.40	5,976 ~ 6,366
8	玉糸(doupion silk)	110d	400.00 ~ 420.00	6,000 ~ 6,300
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	36.00 ~ 43.00	540 ~ 645
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.50 ~ 65.50	863 ~ 983
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 51.00	720 ~ 765
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	40.00 ~ 45.00	600 ~ 675

注:1元=15円

2019年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	122.00 ~ 131.75	1,830 ~ 1,976
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	134.75 ~ 152.00	2,021 ~ 2,280
3	玉繭(double cocoon)		122.00 ~ 137.00	1,830 ~ 2,055
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	97.00 ~ 107.00	1,455 ~ 1,605
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	394.25 ~ 399.25	5,914 ~ 5,989
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	400.50 ~ 404.25	6,008 ~ 6,064
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	390.50 ~ 415.50	5,858 ~ 6,233
8	玉糸(doupion silk)	110d	388.50 ~ 408.50	5,828 ~ 6,128
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	36.00 ~ 43.00	540 ~ 645
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.50 ~ 65.50	863 ~ 983
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 51.00	720 ~ 765
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	40.00 ~ 45.00	600 ~ 675

注:1元=15円

資 料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2019年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	126.60 ~ 136.60	1,899 ~ 2,049
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	139.60 ~ 161.60	2,094 ~ 2,424
3	玉繭(double cocoon)		125.00 ~ 140.00	1,875 ~ 2,100
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	95.40 ~ 105.40	1,431 ~ 1,581
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	394.80 ~ 399.80	5,922 ~ 5,997
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	399.80 ~ 404.80	5,997 ~ 6,072
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	389.80 ~ 414.80	5,847 ~ 6,222
8	玉糸(doupion silk)	110d	387.80 ~ 407.80	5,817 ~ 6,117
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	37.60 ~ 44.60	564 ~ 669
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.90 ~ 67.90	899 ~ 1,019
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	50.40 ~ 53.40	756 ~ 801
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.60 ~ 46.60	624 ~ 699

注:1元=15円

2019年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	123.25 ~ 133.25	1,972 ~ 2,132
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	136.25 ~ 158.25	2,180 ~ 2,532
3	玉繭(double cocoon)		121.25 ~ 136.25	1,940 ~ 2,180
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	94.25 ~ 104.25	1,508 ~ 1,668
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	388.25 ~ 400.00	6,212 ~ 6,400
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	393.25 ~ 404.50	6,292 ~ 6,472
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	386.25 ~ 428.75	6,180 ~ 6,860
8	玉糸(doupion silk)	110d	384.00 ~ 404.00	6,144 ~ 6,464
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	37.00 ~ 44.50	592 ~ 712
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.50 ~ 67.50	952 ~ 1,080
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	50.50 ~ 53.25	808 ~ 852
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 46.25	656 ~ 740

注:1元=16円

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2020 年 1 月号 No.64 令和 2 年 1 月 1 日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず